

昭和三十一年十月二十六日招集  
第三回市議会臨時會會議錄



昭和三十一年館山市議会第三回臨時会会議録

昭和三十一年十月二十六日招集

議長(石井潔君) 本日より出席議員数 三十名 (二小より) 第三回市

議会臨時会を開会いたします。

議長(石井潔君) 本臨時会より議案説明のため、田村市長、小出助

役、完戸総務課長、山本秘書課長、高木農産統計課長

新井建設課長、工藤教育長、鶴沢庶務課長、関監査

委員以上より出席を求めましたので御報告申し上げます。

議長(石井潔君) つづいて会議録署名人より決定を行ないたいと

思います。

お諮りいたします。従来より例により議長より指名により決

定いたしますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よって十七番議員

安西政治君、二十四番議員、脇田順一君、以上、御所君に決定いたしました。

議長（石井潔君）つづいて会期の決定を行います。本臨時会、会期につきまゝでは、議会運営協議会、御意見は、本日一日ということでありまゝ。本臨時会の会議を一日と決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって会期は一日と決定さしきまつた。議案を配布させます。

議長（石井潔君）本日、議事はお手許に配布の日程表により上程いたします。ただいま、お席議員数三十三名、それでは、日程第一報告第十七号を上程いたします。

（書記朗読）

監査委員（関武夫君）十月十三日に実施いたしました例月

検査の結果、報告につきまゝて説明申し上げます。

まず一般会計であります。歳入におきまゝて、市税において五百六十八万二千円余り収入でございますが、これは市民税が二百十七万円、固定資産税が百七十万円、都市計画税が二十大万二千円余、たばこ消費税が八月分が百三十七万五千七百四十円等でございます。収入未済額におきまゝて九千三百九十四万一千九百九十五円という数字になつておりますが、納期がこないものを差し引きますと、正味滞納額が約五千六十万円でございます。税外歳入におきまゝてこの期間に一千二百三十七万二千四百三十四円入っておりますが、地方交付税が九百十一万六千円、使用料、手数料<sup>等</sup>で約百万円、生活保護費を主とする国庫支出金が百五十五万五千余円が主なるものでございます。地方交付税の累計は三千百四十万六千円入っております。

歳出におきましては一千四百六万七千五百二十七円支払われて  
おりますが、役所費として三百九十万円、教育費として  
三百十四万円、社会および労働施設費として二百二十八万円  
等が主なるものでございます。歳入歳出差し引きまして  
三百五十四万一千四百八十五円、又し振りに残が出ております。  
一時借入金金は三百三十九万三千八百八十五円でございます  
が、この内訳は郵政省から三百万円、共済組合から  
三十九万三千八百八十五円でございます。現金、保管  
高は六百九十三万五千三百七十円でございます。

次に特別会計に移りまして、公益質屋の会計で収入に  
おきまして、その他収入とあります。一千三百八十二円は、  
銀行の預金、利子でございます。一番下、櫛り貸付現  
在高が二百十九万九千四百<sup>四</sup>円、おります。これは  
船形質屋が百六十九万八千八百五十九円で、富崎質屋

が五十万五百四十五円でございまして、国民健康保険に  
おきまして、歳入におきます。その他収入百四十七万一千二  
百九十七円ございしますが、このうち、百四十三万三千円は  
国庫からの補助金でございまして、保険料の収入未済  
額は二千七十三万七千五百四十八円、大きな数字になつて  
おりますが、このうち納期が到来しないものが約一千五  
十万円ございまして、差引き一千二十万ほどが、正味納額と  
なっております。前回、市会で報告いたしまして、例へ  
て二万二千六百円の金は、その後雑部金へ入り、そして  
雑収入として九月二十五日にこの特別会計へ受け入れら  
れております。豊彦診療所につきましても、この表に  
よつて御了承をいただこうとございます。以上で説明  
を終わります。

議長（石井潔君）報告に対して御質疑ございますか。御

質疑がなければ日程第二に移ります。

議長（石井潔君）日程第二議案第七十七号を上程いたします。

（書記朗読）

総務課長（完戸貴君）七十七号について御説明申し上げます。

この条例の一部を改正する目的は、非常勤の消防司令がございまして、この司令に対して従来手当として支給いたしておったのでございしますが、今回自治法の改正によりまして報酬としてこれを支給しようとするためでございます。それで改正の箇所は、同条例の二条にございます。別表第一号表の月額報酬中、最後のところ（さまりて消防司令四千円としてこれを報酬として従来同一の額を出したいとするものでございす。）（「異議なし」と呼ぶ者あり）



議長（石井深君）御異議なしと認めます。よって本案は原案通り決定いたします。

議長（石井深君）つづいて日程第三議案第七十八号を上程いたします。

（書記朗読）

総務課長（兎戸貴君）七十八号について御説明申し上げます。この条例の一部を改正しようとする目的は常勤消防署員に対して従来服務手当の

を支給しておたうでございしますが、これを条例で明確化しまして、特殊勤務手当として支給して合わせて各条例の十三条の二項を整備しようとするためでございします。改正の個所につきましては第一号、二号、三号は内容には変化がございません。今回新たに設けましたのは第四号ないし六号でございまして、第四

号は技術手当として

公務上の作業

に対して支給しようとするものでございます。

それから第五号は危険な作業手当として

等々の危険な作業に対して従事した場合に支給しようとするものでございます。

第六号は

消防職員

の消防作業に対して、それぞれここに定められた手当

を支給しようとするものでございます。

十一番(伊勢仙之助君)総務課長さんにお尋ねしますが、

十三条というのは消

防署員だけに対する報酬ですか。もしそうでなかったと

したら、具体的にいうと特殊の技術を要する作業という

のは、どういうことを言った場合か。

いろいろ

あると思いますが、具体的には

いま消防署

に対する

こゝは超過勤務と一応別個に――

なお、そのほかにも――手当と

いうものを出ておりますかどうか。こゝ点を

・終務課長（元産責君）こゝ条例には大体概要について定めら

うでございすが、なおこゝ支給の細かい点につきまゝて

は、市長が別に定める。こゝううに考えておるうでござ

います。ただいま御質問のこゝまゝな点はひとり

消防署員だけでなく一般の方面にそれぞれこの該当す

る公務に従事した場合には支出しようというもので

ございすが、危険な作業手当といった――まゝではこ

んなふうに考えております。麻薬等を取り扱ひまゝて

その取扱中に自然に人体に有害な場合は配布したり

輸送したりあるいは散布したり回収をする。さういう

場合、それから火災等――その他非常な災害の

発生しました場合、応急的にその構造物を破壊するとか、もしくは復旧作業に従事するとかいうような場合、それか  
う、ただいまう。

除である作業に従事した場合、こういうふうに考えてお  
ります。それから消防署員の出動手当でございしますが、

これは従来、非番員が出動した場合には、

——として支給しておたうでございしますが、今回この超勤  
で支給することはどうかと、そこでこれを出動手当として大体  
従来支給しておりました超勤手当額、程度に支給する  
方がよろしいではないかというふうに考えまして、支給しよ  
うとするものでございします。

十一番（伊勢仙之助君）そうしますと、一応——  
うは、その場合に——  
うんですか、この

考え方については、——ば、市長に対して超過勤務と

—— いう点について考えてくると、条例というものをつくって——

—— 私たちとしては、働く人たちに余分に働いた場合には、それだけに対して、こういった特殊手当でなく、成規の条例で定められた超過勤務費を出して、なおそのほかに危険作業に従事したときには、危険手当というものを出すのが、普通の手当の出し方ですが、たださっきの説明では、支給細則をあとでつくらなければ、これは実施できないというふうに考えますが、こんど支給の細則といえますものをとおつくりになる御手定ですか。どうですか。その点を御説明願いたいと思います。

・ 総務課長（完戸貴君）支給の規則を判定する予定でござい  
います。

・ 十一番（伊勢仙之助君）出勤手当の場合に超勤を打切って  
手当に代えたという場合に—— からめ合

わせう<sup>場</sup>合はどうお考えになっておりますか。

・総務課長（完戸責君）基準法との関係でございしますが、これは現在市役所吏員に對し——ても超勤を支給してありますか。——成規の手当を支給しないということ

ことになっておりますので、基準法との関係は——

——こういうふうを考えております。

・十一番（伊勢仙之助君）超勤手当について市役所の職組あたりから市長に對して超勤手当を成規に支給してもらいたいと強い要望がありまして、たかどうが、それとも市長側から職組に對して市の財政が——がまんし

てくかと、どちらに現在話合いがついておりますか、その点も御説明願いたいと思います。

・総務課長（完戸責君）超勤につきま——では、吏員におきま——でも現在、館山、財政状況はわかっておりますが、

よほど

市長と職員組合と相談をい

たしまして、大体现在う一時間三十月、三時間以上あった場合

に—— という方法で財政が直るまでがまんをしてもういたいという了解ができてまいてから、まだ現在では、そう強い要望が出ておりません。

十一番(伊勢仙之助君) 一応市側の見解はわかりましたんですが、私たち一応働くものといえますか。そういうものに対して基準法通りう条例通りに手当をなるべく早い時期に支給できるように、市当局もお考え願いたいと思います。財政困難で市長に実施しろということでは、困難かも知れません。労働者を守る基準法というものがあつて、建前上——

—— そういう面に向かつて努力をいたしたいことをつけ加えまして、原案に賛成いたします。

市長(田村利男君) 伊勢議員に申し上げます。超過勤務等

の問題でございます。市が財政がただいまうかて行きますと三千百万円、赤字も大体見通しがつきまうたうで、できれば来年おそくとも再来年あたりに御要望の趣旨に添うことができるかと存じます。もう一ぱうく御猶予願いたいと思います。

三十二番

（この番号の金額が第六だけが百円以内となっておりますが、ほかはやんだ、百円とか、二百円とか切っておりますが、そこに何か意味がありますか。

・総務課長（完戸貴君）これは消防士が非番の場合に火災等で出勤をいたしましても、その火災の状況によりまして非常に長時間にわたって作業をした場合と、出勤いたしましてもただちに消火したというような場合には、おのずと区別されてもいいんではないかというので、百円以内、そして細目につきまうては、規則で決めたいと、それ



でこちらう考えといたしましては、三時間未満で終るときには五十円、三時間以上防火作業に従事した場合には百円と、こういうふうに二つに区分いたして支給いたりたいと考えております。

○三十二番

（おそうくそうだろうと私も想像しておったんですが、そうだとしますと百円以内というのは非常に小額に——やーないか、百円以上が支給できないというのは、小額に——しすぎないか、むしろ調節ができるとすれば、もっと高額にして内容をなんといたしますか、基準をお決めになった方がいんとないかと思ひます。

・総務課長（完戸貴君）これはごもっともなお説でございますが現在う場合におきましては、市民がよく消防事務に協力して下さいますしいずれも火災う場合におきましても大体初期ううちに消し止めるという場合が多いのでご

ございます。それからもうひとつは、この金額の方でございますが、もちろん我々消防に關係を——ある

ものといたしまゝでは、こゝ——望むまで

でございますが、吏員や超過勤務手当等々、関連もございまして——がまんをしい

ていただきたい。こういうふうを考えてある次第であります。

議長（石井潔君）他に御質疑ございせんか。

（「異議なし」「賛成」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よつて議案第七十八号は決定いたすことに御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よつて本案は、原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第四議案第七十九号を上程いたします。

（書記朗読）

総務課長（元戸貴君）七十九号議案について御説明申し上げます。当市には現在二台乗用車がございまして、その機能をいかに発揮しておるでございしますが、そのうちベーカーは五十二年式でございしますが、最近とくに故障が多いでございまして現在では市内をかううトて走行しておるといふような状況でございします。

よってこの際、さらに一台新鋭の車を購入いたしまして、行政の効果を十分に発揮したいとこのうふうに考えるものでございます。購入先等につきましては、市長にお任せを願う。このように考えております。

議長（石井潔君）本案に対して御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よって本案は  
原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君) 続いて日程第五、議案第八号を上程  
いたします。

(書記朗読)

総務課長(完戸貴君) ハ号を御説明申し上げます。  
まず、順序といたしまして、歳出から、御説明を申し上げ  
たいと思います。

第二款、市役所費でございますが、今回計上いたし  
ましたものは十五万円でございます。これは分館の  
前に二間、三間、自動車、車庫を一むね建設し  
たいと考えるのでございます。

第三款、消防費は八万三千七十円、計上で、このうち

消防団費に十二万三千七百円を施設費として計上いたしま  
した。これは現在、館山高等学校の校庭内に八分団で設  
置いたしました野水池がございしますが、これは館山高等学  
校の運動場からトキまである。ぜひ他へここを移転して  
もらいたいというような希望もございしますので、市でその可  
否について地元分団とも交渉いたしたのでございしますが、  
今回ようやく、北条小学校の校庭内に適当な地を物色する  
ことができまして、長さが四間の五十メートル、幅が六メー  
トル、深さが一間の八十メートル、大体三百石入りでございま  
すが、同じ野水池を一個建設したい。このように考えるのでござ  
います。

（第四款土木費について御説明申し  
上げます。）

今回追加予算といたしまして、七十五万円を計上いたしまし

た。これは今月二日豪雨発生によりまして破損いたしました道路橋梁、護岸の復旧に要する費用でござい  
ます。降雨量は一八三・四ミリにございましては、強い降  
雨のために非常に出水が多かつたのでございします。

被害地は旧神戸村の大神宮から神余に及びまして  
非常に多く発生いたしました。第一項道路橋梁費  
におきまして六十二万円の追加災害の起きまして道路  
路が十二カ所、橋梁流失十カ所、その他破損が五カ所  
これに要する費用といたしまして二十七万四千円、橋  
梁の修繕費といたしまして三十四万六千円を計上い  
たしました。第三項におきまして十三万円は災害を  
受けました護岸復旧費でございします。

(七) 七款の教育費につきまして、  
御説明いたします。教育費におきまして、四万五

千二百五十円の追加でございます。幼稚園費の七節――

で三千九百円を追加いたしましてたが、こゝは、那古幼稚園の助教員、フナコシヤマコウ退職手当でございますが、

在職期間は一カ年でございます。公民館費の二十節、借料および損料で一千三百五十円、会場借上料でございますが、こゝは、果から婦人会に納付される金額でございますが、引受人の名前が館山市になっている関係で一応予算を通したわけでございます。歳出におきまして、工事請負費で五万円、プールスタンド修繕料として計上いたしましてたが、こゝは、先日、十五号台風におきまして、降雨のために七月に修理いたしましてたが、スタンドが雨のために下へ崩れ落ちてしまっておりまして、それを今回修繕いたしたいと思います。

十款の産業経済費について御説明

申し上げます。農林費の調査費といたしまして、三十  
 万追加をお願いいたわけですが、これは新農  
 村振興計画の事務の委託料でございます。この新農村  
 振興計画と申しますのは、農山漁民の自主的な終意に  
 基き、（さ）地地帯を元とした農村漁村の振興に關す  
 る計画の樹立および事業の實施を総合的に推進する  
 ことにより、農林業の経営の安定と農山漁民の生活  
 水準の向上を図ることが現下の急務で、これがため、政  
 府は昭和三十一年度を初年度として二カ年を目途とし  
 て新農山漁村建設総合対策を設けることになり、  
 全国を概ね五干地域として今年度は九百地域を指定  
 した。本県は事業実施計画地域中に決定いたしました  
 本市は第一地域として旧市第二地域として西岬宮  
 城、神戸第三地域といたしまして豊房、館野、九重



う三つに分けました。本年第三地域は計画地域に指定され、さる五日に第三地域を新農村振興協議会を決定いたしました。構成員は市長、議長、農業委員会、長農協長、部落団体代表、青少年、婦人代表、学識経験者、全部で三十三名でございます。この第三地域の農村振興計画樹立のために二十万お願いいたします。回より五万円の補助がくることになっております。これは指令はもうきております。それから第一、第二地域も近いうちに振興協議会を結成いたしまして指定地域にさるようにする考えでおりますが、この仕事と申しますのは、一地域一千万円も事業量をするようになっております。その一千万円先に金を寄越して補助金が大体四百万くる予定になっておりますが、補助金を抜いた残り金、これは長期返済で無利子で農山漁村の振興を図

るということになつております。よろしく願ひます。  
 総務課長（完戸責君）つぎは歳入について申上げます。  
 第三款の公営企業および財産収入で九十二万三千九  
 百月を計上いたしました。これは自転車競技の収入で  
 ございまして現在まで五百二十万収入があつたのでござ  
 います。そのうち千葉競輪、それからもう一回残つて  
 おります。千葉競輪二回で五十万を予定いたしまし  
 た計上いたしたのでございます。第四款の使用料およ  
 び手数料のうち収入証紙収入三万三千七百月を計上  
 いたしました。これは市町の危険物取扱事業所にお  
 きまして危険物取扱  
 として資格者がい

なければならぬということになりまして、この試験を消  
 防署で実施いたしますが、大体この受験者百三十  
 名といたしまして、一人二百円で二万六千円、それから

合格したものに對しまして免許証を交付手数料が一件百円で七十七名、七千七百円を計上いたしたうでござい  
ます。第六款の県支出金は十万円でございますが、こ  
ううち五万円が先ほど歳出で説明のございました新  
農山漁村建設計画樹立推進事務補助金として五万  
円、それから消防施設費の補助金として五万円、これは  
マスコットを本年買いまして、たうで、県から一台分について補  
助する見込でございます。十款の雑収入のうち不  
要品の売却代金は、これは土木課に属しておりますところ  
の不要木材の売却代金を十万円予定いたしたうでござい  
ます。雑入り二千三百五十円は九重地区の婦人会に  
—— に関するものでございます。以上歳入百十五  
万八千九百五十円の追加更正額でございます。

議長（石井潔君） 本案に對して御質疑ございますか。

二十八番(鳴貴杜作君)道路修繕料のこわした場所、それ

とはつきりさせて下さい。それから同様に増橋梁の

修繕料 護岸修繕料

( ) 道路修繕料につきまゝでは、災害を受

けまゝに個所のみに使うのでございます。先ほど申し

上げましたように神戸大神宮から神余に通じますとこ

ろが大神宮のほかに大神宮から

神余に抜ける神余線(「道路ですか」と呼ぶ者あり

道路です。神余線、神余線、相安線

神余線、線、こういう具合になっておりまして、この敷が

十二カ所ございます。これが道路修繕料、使用個所で

ございます。それから護岸の方は

橋梁の方は神戸村でございしますが、こゝに一カ

所、一カ所に一カ所

に一カ所

に一カ所

に一カ

所ございまして計六カ所でございます。

三十五番(福岡保徳君) いまう中にこんど災害でこわれたところでも似たところがあるんですか。それといつまでに修理を終る予定ですか。

( ) お答えいたします。主に調査いたしまして一応追加もございまして、それから、

道路、その他につきましては予算の関係上、急速に直すというので部落の協力を得まして、大半直っております。橋梁は順次、今月中から直しまして、年内には全部やる計画でございます。

十一番(伊勢仙之助君) いまう福岡議員に関連して、現在二つところ、左側ですが、台風で大分こわれておりますが、その点は一応御調査なさいまして、たかどう

か。お尋ねいたします。

( ) お答えいたします。二中うところは、あの  
工事をやる時には、市の管理になっております。  
その後——さきまして、県が管理いたしますことになっ  
ておりまして、県の方で災害復旧として計上いたす  
ことになっております。

十一番(伊勢仙之助君) 一応災害復旧は県の方で今年  
度やらそうですか。その点見通しについて  
( ) お答えいたします。これは災害が大  
きいのでございまして、県が単独事業とやなくて、国  
の費用をいただくことになるだろうと思っております。  
建設省の査定がなければ——  
おります。

十一番(伊勢仙之助君) 場所が点ですが、私らってるのは

大きくいえば、場所ではなくて現在、市道が自動車が通水なく  
なつてるといふような橋りたもとより左側の方です。

そこをさしてゐるわけですが、場所がちつと違ふようですが、

（お答えいたします。実際、災害を受け

てて圓の費用が今までつかないで、県で今うまゝに  
なつておりますが、市道の方もそれに附連してありますので、  
砂利を用いまして修繕することにいたしております。

二十四番

（先ほど

お話を

聞きました。たが、私の方、菅野から、腰越に通ずるつり橋  
が一日、豪雨で、三カ所穴があいて、まわっているで、  
ひとつ、ございます。至急善処をお願いしたいと  
思います。

おります。で、ぜひお願いする次第であります。

（その果につきます。では、早速調べまして、

修理いたしたいと思います。

二十一番

（ ） ちよとお伺います。が、北条小学校の

校庭に三百石入りの無蓋貯水池を建設するということ

でございますが、この無蓋貯水池でございすけど、およそ

危険が伴います。また生徒児童が相当大勢おります

ので、この点につきまして無蓋でも危険のないように

て、もううことを要望しますが、それにつきまして、どう

有蓋にーなかったという理由をお伺います。なお、次に

この貯水池を設置しますのにつきまして、国または県

から補助金が歳入に計上してございせんが、これは、

補助金は出るものか、それも合わせてお伺います。

・ 総務課長（完戸貴君）お答えいたします。補助金につきま

ては、これはこちらで独自に施設でございすので、一般

の貯水池と同じくございせん。それから、ただいま小学



児童の危険の防止という御意見でございます。これは、ごもつともな御意見でございますが、保護者といたまーても、この野水池の回りを丈夫な鉄骨を設けまーて、索を設けて子供たちが自由に出入りできないようにして、災害、事故を防止いたーたい。こーいうふうに考えております。つぎは、――件でございますが、三百石入りのものをつりますと、経費の点で非常にかかるのでございます。こーいうふうな関係から、僅少の経費で最大の効果をあげるといふことになります。といふさか、知れませんが、なるべく最少の経費でとにかく水を使用に堪えるだけ、十分な水をたたえるものになーたいといふので――

十一番（ ）いろいろ問題で、望月議員の質問に、関連があるんですが、実はこーう――う問題で、鉄骨で

ちつとやうて干倉で二十日ばかり前ですが、実は子供が死  
んだ例があります。そういう点から鉄骨をやる場合に  
も相当の高さにしないと子供が上がって落つて、そのま  
もぐつて出てこないで、あとで学校や先生が行っても間  
に合わなかったというやうな例がありますから、こゝ危険とい  
う点について非常に真実慮しておるんですが、高さとか  
子供へのばらないやうな方法を十分考えていただきたいと思  
います。多少、二万や三万の金を――  
生命を守れないというやうなことがあります。近いところ  
にそういう事実がありまして、十分考えておつるにな  
っていただきたいということを要望いたします。

ナニ番（

）ただいまより土木費の――

もつてあります。こゝ災害復旧を速かにやるという御  
答弁であります。とくに市道におきまして、あとで事業

と関連があつてそれはやうないといわれる個所が私はある  
やに思われますが、それについてあとでそこをやるということ  
で放置しておくことになるし、それやるまでう間にも自動車  
が通つてもバスが通つても平常に通ずるやうにして置いてい  
ただきたいところ、予算の中に修繕料は新たに含まされて  
おりますか、またはそれは未来の工事を見越して――

――またもうひとつは関連ありますすが、渠  
道が非常に悪い普通う――到底走れない個所

が市ういたるところに見受けらるゝというこの問題をど  
ういうふうに市当局として――これも笑

害に関連うある、とくにこの雨期にいたつて――

――これを契機として――

――どう市民の要望にたえていたどうか。

これに対するどういうふうになつていただくかと

いうことを

願わくば、また私たちが

でき得る限り、果て方に対しても、早急に正常な運転が出来るようにしていただきたいと、市当局も骨を折つてもらいたいということが、わいわいわんとするところでもあります。その点、どういふうな——お考えになつておられますか。一応お尋ねいたします。

( ) 答えたいいたします。今回、市道と——

災害復旧の中には、将来——に対する

的なる考えは入っております。県道、その他、道

路が悪いことにつきましても、各地域より、そういう声を

承っておりますので、その都度、出張所の方へ連絡して路

面を補修についてお願いして、おることは事実でございます

すが、それ以上のことについては——その他

によって解決しなければ――

――県の方と打ち合わせする予定になっておりますので御了承願います。

十二番

――課長さん、説明でわかりました。私が説明が悪いかわかりませんが、私が聞いてるところと、変えているように思われますが、~~結果~~来月の工事を見越してそういう箇所は手をつけずにおくかというのであります。

例えば、この地点は道路工事を大体やるんだという決定されておるところに対して、この道が現在通行上には非常に――という箇所がある

わけでありましたが、説明が――そういったことは見当らないもうと私はそれを尋ねたもんであります。

それから県道の問題であります。

県当局のやるべきものであるということは、重々私たちも承知の上であります。が、平常な状態にいていただくということはやはり県道であつても、市当局はやつていただかなくちゃならぬ問題だと、そう一端と一まては

とくにこれは皆さんが

推測しますが、またこの土木委員会

にやられておられると思ひます。その点について市でやらなくても構わぬということは、毛頭県道でありますから

もんであります。が、これを非でもやつて

いただかないとバスの中でも、けが人がおきるといふような現状であります。つて、改修に待たなければならぬといわれる。改修なくてもあるいは砂利やなんかで補いをつける。それも改修に価するでしようが、要するに当面の問題として砂を入けてもらわなくちゃならぬという

個所をなんとかいていただきたいというが、これは市内にある舗装以外、道路では各所にみられるところであり、あります。この点についてでございますが、もう一度県が改修するということと、やなくて、そういったことをいかば、いていただくかということと、あります。とくに、承りするものは、市道でないで、市がやらなくてもいい、ということは、わかっておりますが、それだけ。

十七号

議長(石井潔君)本案原案通り決定するに御異議あり  
ませんか。

異議なしう声

議長(石井潔君)そこでは御異議ないと認めまして可決確定  
いたします。

議長(石井潔君)休憩いたします。

議長(石井潔君)ただいまより出席議員数三十二名、休憩前に  
引き続いて会議を開きます。

二十二番(松本藤太郎君)当議会が副議長は先月二十一日  
以来、欠員になっておるわけでございますが、議長、副議長  
というのとはともにこの議会が機関でありまして、この  
ままなお、空席を生ずることは、議会構成上、不適當で



あることは申すまでもございせん。従いまゝ一筆刻  
も早く選挙をして完全な議会として面目を維持し  
て行くべきであるとかうに考えております。本議  
会において、日程を追加して速やかに副議長選挙を  
実施いたします。ここに安西政治君、山本昇君、小沢  
光義君、後藤ゆき君、黒川佐太郎君、田中祿郎君、福  
岡保徳君以上の方々の賛成を得まして、副議長選挙  
についての動議を提出いたします。よろしく御協賛の  
ほどをお願いいたします。

議長（石井潔君）ただいま二十二番議員松本君より提出があり  
ました副議長選挙について、動議を議題といたします。  
お説のとおり、地方自治法上必ずしも置かなければならぬ。  
一日たりとも欠員がままであることは許さぬというてありま  
して、本日の日程に追加して、ただちに選挙をいたします。

かどうか御意見を伺います。お諮りいたします。

副議長選挙を本日9日程に追加することに御意見で  
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よって日程は追加  
いたします。副議長選挙についてを議題といたしま  
す。つきましては、選挙の方法について投票によります  
かあるいはまた指名推選によりますか、御意見を伺い  
ます。

二十番(松本藤太郎君) 私は選挙は前回もやっております  
でございしますが、今日はできうることならば推選の方法を  
とっていただきたいとかさうに考えます。

議長(石井潔君) お諮りいたします。ただいま二十番  
議員君より副議長選挙を推選の方法により

決定するという御意見でございますが、この御意見に従うことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よって指名推選と決定いたしうございまして、ついで指名の方法について御意見を伺いたいと思います。すなわち指名者をどのようにするか御決定をお願いいたしうございしますが、どなたを指名者にいたしうございするかお決まりいたしうございします。

三番(山本昇君) 推選う指名者に三十六番議員の嶋田繁氏をお願いしたいと思ひますが。

議長(石井潔君) ただいま三十六番議員君に指名者になつてもらいたいという御意見があります。御異議ございせんか。

十一番(伊勢仙之助君) ただいま山本議員さんう考えている

ことはわかるんですが、指名者という点について誤解があるようですが、おそらく山本議員が気持は三十六番議員に指名う動議を去ってもらうという御見解だろうと思ひますが、その点について山本議員の御意見を聞いてからの方がいいんじゃないかと思ひます。

三番(山本昇君) たいいま十一番議員のいわゆるように嶋田さんから推選していただいて、こういう意味です。

ニ十二番(松本藤太郎君) 私は誰をやるか、思ひ思ひ書いて投票するということではなく、とにかく推選するかわからない。だが推選されてくるかわからないけれども推選の方法で要するに候補者というふうなものか、二名なり三名なりあるいは一名で清むふうか。

そういうことで私は申し上げたのです。誤解のないように。

議長(石井潔君) たいいま三番議員の御意見は嶋田三十六

番議員に副議長、候補者を指名していただきたいとい  
う御意見と拝聴いたしまして、三十六番さんに御指名  
願うことに御意を義ごぶいませんか。

（黒川佐太郎書山本議員が鴻田議員を指名者と  
する理由をお尋ねします）。

三番（山本昇君）別に理由はございませぬ。

二十番（鈴木市蔵君）指名する方法は、この場合、何名かを議  
長さんが選考委員を立ててその結果指名したいと思いま  
すか、いかがでございませうか。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）それでは、ただいま二十番議員をお説もあ  
りまして、多数御賛成のようでございますので、選  
考委員をあげて推薦していただく、こゝのようにいたいた  
いと思ひますが、三番議員は先ほど御意見を撤回願

って、そのようにできますか。　　そのようにいたします。  
何名選考委員をお選び—ま—うか。

（「議長一任」と呼ぶ者あり）

それでは議長一任に御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）　それでは選考委員は五人といたしますか、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）　五人と決定いた—ま—た。

議長（石井潔君）　ただいま一任さ—ま—た選考委員を決定いた—ま—たりて申し上げます。選考委員五名、嶋田繁君、松本藤太郎君、小浜光義君、佐久間為次郎君、福岡保徳君、以上五人、諸君にお願いいたします。ことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)さう決定いたしました。それでは一ぱらく休憩いたします。休憩中に選挙委員会をお聞き願います。

議長(石井潔君)休憩前に引き続き開きます。  
議長(石井潔君)選挙の結果を選挙委員の代表の方より御報告願います。

三十六番(嶋田繁君)それでははなはだ潜越でございます。すけれども選挙委員会が代表といたしまして、これから申し上げたいと存じます。まず、副議長を選ぶに当りまして、投票の方法を捨てまして、そして推薦の方法で行くということは、いかにも議会が和気あいあいたるう

ちには、こゝを決定するといふやうなことで誠に喜びとする  
ところであります。選挙委員会としましては慎重に  
御相談申し上げました結果、小各議員を副議長  
として御推挙申し上げたい。こういうふうに決定いたし  
まして、たゞでございしますが、その理由といたしましては、  
まず、御当人は剛毅をうちに包むといったような方  
でありまして、人格は非常に高潔でありますし、  
なお非常に温厚な方でございます。また、一方、館山  
市の現状からいみますと、財政再建の途上でありま  
す。もつとも重要な時期に迫られております。  
この際、こちらの方に副議長、職についていただきま  
すことは、市から申しましても、もつとも、こゝが上策と  
存ずるところでございします。こういった理由から、小各議員  
を御推挙申し上げた次第でございします。願わくば満場



、皆さんに御賛同を得まして満場一致をもって御推挙申し上げたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

議長（石井潔君）ただいま選挙委員代表鴻田議員より御指名ありまして、本議会副議長に小谷無達君を当選人と決定いたします。ことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。（拍手）  
よって副議長に小谷無達君が当選人と決定いたします。まーた、この際御紹介いたします。

（小谷無達君）登壇）

議長（石井潔君）本市議会副議長 小谷無達君を御紹介いたします。（拍手）

十九番(小倉無違君)はかうずも本日の臨時市会におき  
まゝて不肖私が皆さま方々御推挙にめざかりまゝ  
て、もつとも議会、大切な副議長、椅子を私にお譲り  
下さりまゝたことに、つぎまゝて厚く厚く感謝申し上げ  
ます。――ただいま、選考委員長さんからうけおほ  
めのお言葉を頂戴して、ございまして、どうも、こ  
れは、実際、それとは異なりまして、子をみることに親に――か  
ずとか申しまして、私、父が私に無違という名前を、そ  
の姓名はもつて自分、志をあらわすとかいいます、けれ  
ども、御承知のとおり、私は私の名を示すごとく、無為  
無能のものです。――おまゝ、こういう貴重な大  
切な椅子を拝借いたします。――つぎまゝても、何から  
何まで、皆さま方々御指導と御鞭撻にまつよりほか  
全然、私といたしましては、無為、無能でございます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。折角、御推薦に  
よりまして、一ぱらう、間、僭越でありますけれども、荷  
子を拝借いたすことにいたします。ただ、ことに私が  
ただいま非常に肝にめいじまして、これは、皆々の方が先  
ほど委員長、いわゆる、和気あいあいうちに  
満場一致をもちまして御推薦さし、たことは、一人、私、  
ためり、みならず、本議会といたしまして、こう、た和気  
あいあいうちに事が運びますことを、非常に何き、  
の私は光榮と存じます。また、本市を将来五派に運  
営して行きます、点におきまして、なにかと、離いたし  
ませんように、なにとぞ一致のもとに、むろん議論の上から、  
派ばつは、これは当然、議会政治でありますけれども、  
個人関係、その他におきましては、私情を捨てて、そう  
して、なるべく、円満、うちに、す、こ、たい、という、のが、私、う

本願であります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。  
以上をもって終りといたします。（拍手）

議長（石井潔君）こゝをもちまゐりて本日午後五  
部を完了いたしました。こゝをもちまゐりて閉会い  
たします。

